

事後評価シート

コード 5-2-4	事務事業名 生ごみ堆肥化事業	所管部課 環境防災部ごみ減量推進課
--------------	-------------------	----------------------

事務事業の概要	事務事業の目的 家庭から排出されるごみを堆肥化することにより、ごみ減量と資源化に活用する。	事業の区分 <input checked="" type="checkbox"/> 総合計画 <input type="checkbox"/> 行革項目 <input type="checkbox"/> その他の事務事業
	実施内容、実施方法 公団住宅(グリーンプラザひばりが丘南)の大型生ごみ処理機7基により一次処理を行い、委託業者により他からの処理物と混ぜて二次処理し堆肥化を行う。	根拠法令等
	事業開始時期 平成 13 年度	実施形態 <input type="checkbox"/> 直営 <input checked="" type="checkbox"/> 委託 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> その他 ()

評価指標の設定	活動指標名 設置基数	活動指標の考え方(定義) 大型生ごみ処理機を設置した台数
	成果指標名 1次 堆肥化処理量	成果指標の考え方(定義) 1次 二次処理後に堆肥化した量
	1次 処理量	1次 大型処理機に投入された生ごみの量(堆肥化された量からの推定量)
	2次 利用率	2次 堆肥化されたもののうち、利用のために配布した割合

		単位	15年度	16年度	17年度	18年度
事務事業データ	事業費(A)	千円	3,041	2,966	2,720	5,506
	国庫支出金					
	都支出金					
	地方債					
	その他					
	一般財源		3,041	2,966	2,720	5,506
	所要人員(B)	人	0.3	0.3	0.3	0.3
	人件費(C)=平均給与×(B)	千円	2,482	2,498	2,456	2,456
	総コスト(D)=(A)+(C)	千円	5,523	5,464	5,176	7,962
	単位当たりコスト (E)=(D)/ (処理量)	千円	0.53	0.56	1	#DIV/0!
歳入	千円					
活動指標	目標値	基			7	7
	実績値	基	7	7	7	
活動指標	目標値					
	実績値					
1次成果指標	目標値	kg				9,590
	実績値	kg	10,340	9,770	9,590	
1次成果指標	目標値	kg				47,950
	実績値	kg	51,700	48,850	47,950	
2次成果指標	目標値	%				80.0
	実績値	%	58.0	61.4	20.9	

事業環境	市民・関連団体等の意見 (アンケート結果など)	
	26市のサービス水準との比較 (平均値、本市の順位など)	生ごみ堆肥化に取り組んでいる市は掌握していないが、武蔵野市が本市と同様、桜堤団地で大型生ごみ処理機を設置し、堆肥化している。
	運営上の制約条件・外部要因等	

コード 5-2-4	事務事業名 生ごみ堆肥化事業	所管部課 環境防災部ごみ減量推進課
--------------	-------------------	----------------------

【事業所管部評価】

検証項目	選択基準	ランク	選択理由、特記事項等
1 目的の適切さ・目標	3 上位施策と目的が合致しているが、施策に対する貢献度は他の事業と比較して低い	▼	3
	2 目標を定量的に設定できないが、定性的には設定している	▼	2
	4 今後しばらくの間、少しずつでも継続して実施する必要がある	▼	4
2 市が関与する必要性	1 法的義務性 1 法律・条例・要綱・要領等で実施が規定されていない	▼	1
	1 必要性 1 希望する一部の市民等以外にあまり関係がないサービスである	▼	1
	1 民間との役割分担 1 民間団体が同種のサービスを十分提供し、質または量が上回っている	▼	1
3 内容の適切さ	1 ニーズ 1 市民(庁内)ニーズが把握できていない、または、ニーズ把握が曖昧で説明できない	▼	1
	1 規模・方法の妥当性 1 事業規模や方法は過去を踏襲しており、特に見直していない	▼	1
	2 公平性 2 直接の対象は、特定属性の一部の市民または団体である	▼	2
4 実施手段の適切さ	1 有効性 1 質・水準の改善にはあまり取り組んでいない	▼	1
	1 効率性 1 具体的な計画や目標等に基づいたコスト低減には特に取り組んでいない	▼	1
	1 独自性 1 国や都、庁内に同種の目的を有する(類似・重複を含む)他の事務事業が複数ある	▼	1
合計			19

総合評価	評価結果	判断理由、説明等
	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input checked="" type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input type="checkbox"/> 廃止	<p>生ごみからの堆肥は品質が十分でないため、用途が制限される。堆肥化したものが大量に在庫されてしまい、利用方法に苦慮しているため、有効な活用方法の検討が必要である。平成19年度に家庭ごみの有料化を実施するにあたり、この事業の無料処理をどうするべきか検討する必要がある。</p>

18年度における改善点	<p>消耗品の劣化が激しく、機械の調子が悪くなったため、平成18年度で大規模な修繕を実施する。西東京市ごみ資源化及びごみ減量推進協議会の提言に基づき、庁内による検討組織を設置し、既存事業の検証等を行う。また、利用者アンケートを実施し、今後の事業展開の参考としたい。</p>
-------------	--

二次評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止	<p>テスト事業の当初目的は果たしたと思われる。今後のゴミの有料化に伴い、処理機のあるエリア在住の一部の市民のみが利用することは、公平性の点でも問題があると思われる。また、ゴミを原料とした堆肥は、需要が低く、業者に相当量を有料で保管されたままである。事業目的及び事業コストを考慮すると、有料化開始前に廃止あるいは休止し、他事業も含めゴミの減量化に向けて事業の再構築が必要である。</p>
------	---	---

行革本部評価	<input type="checkbox"/> 拡充 <input type="checkbox"/> 継続実施 <input type="checkbox"/> 改善・見直し <input type="checkbox"/> 抜本的見直し <input type="checkbox"/> 休止 <input checked="" type="checkbox"/> 廃止	<p>総合評価、二次評価記載のとおり、ゴミ処理機のランニングコスト、堆肥物の用途、ゴミの有料化後における公平性等を考慮すると、本事業は今後廃止することが望ましい。よって、当面、廃止を視野に関係機関との調整や廃止の時期等の検討を行う必要がある。</p>
--------	---	---